

2024.04.30

PROG 成績と累計 GPA との相関関係分析結果

IR 室

標題の件、下記の通りご報告いたします。

記

1. PROG について

- (1) 本学では学生の社会人基礎力の把握とその成長を図るため、PROG テストを導入している。
- (2) PROG はジェネリックスキルを測定するもので、内容は社会で役立つ「リテラシー（知識を活用して問題を解決する力）」と「コンピテンシー（人と自分にベストな状態をもたらそうとする力）」を計測する。
- (3) PROG の結果は Level1～7 の数値で示され、数値が高い（Level が高い）ほど社会に出て活躍する力が発達していることがわかる。
- (4) PROG は 2012 年 4 月にスタートし、日本全体で利用校は大学・短期大学合計で 496 校、受検者数は累計 170 万人（2023 年 7 月末時点）に上っており、教育インフラとしてその地位を確立しており、十分な信頼性がある。

2. 分析内容

- (1) 2024 年 3 月卒業生（2022 年 4 月入学、2023 年度卒業）で、在学中に PROG テストを受検した学生の卒業時成績と PROG テストとの相関関係を調査した。
- (2) 具体的には、卒業生が卒業目前の今年 1 月に受検した PROG テスト結果と各卒業生の累計 GPA（当該学生の在学中のトータルな成績を表す）を比較し、相関係数を求める方法を採用した。
- (3) 前年度までは PROG の受検者数は 1 回目、2 回目、3 回目と回を追うごとに減少していたが、今年度はゼミの先生方の積極的な勧奨により、卒業生全員が受検した。
PROG は、学生が社会に出て求められる汎用的技能（ジェネリックスキル）を測定するツールであり、受検することは学生にとってメリットが大きい。厳しい指導をいただいた先生方には感謝を申し上げたい。

【相関係数】

相関係数とは、2種類のデータの直線的な関係の強さを表す指標。-1 から 1 までの値をとる。1 に近いほど正の相関があり、-1 に近いほど負の相関がある、0 に近いほど相関がないことを意味する。

相関係数 (r)	相関の強さ
$-1.0 \leq r \leq -0.7$	強い負の相関
$-0.7 \leq r \leq -0.4$	負の相関
$-0.4 \leq r \leq -0.2$	弱い負の相関
$-0.2 \leq r \leq 0.2$	ほとんど相関がない
$0.2 \leq r \leq 0.4$	弱い正の相関
$0.4 \leq r \leq 0.7$	正の相関
$0.7 \leq r \leq 1.0$	強い正の相関

3. 分析結果（結論）

(1)リテラシーについては累計 GPA との相関係数が 0.37134 で、「弱い正の相関（リテラシーが高くなると累計 GPA もやや高くなる）」が認められた。昨年、一昨年度も同様に「弱い正の相関」が判明したが、今年度も概ね同様の結果になった。

（注）別紙①ご参照

(2)コンピテンシーについては累計 GPA との相関係数が 0.00055 で、昨年、一昨年度と同様、ほとんど相関がないことが判明した。

（注）別紙①ご参照

【詳細】

①リテラシーの同じ成績の学生をグループ化し、累計 GPA 平均値を表すと以下の表のとおり。リテラシー7 のグループは 5 人しかおらず、統計的には一部の成績不良者に平均値が引きずられた格好。リテラシー6 のグループは明らかに成績上位。リテラシー1 のグループの成績は他のグループに比し、明らかに低位。

リテラシー	累計 GPA 平均値
7	2.36
6	2.65
5	2.44
4	2.40
3	2.27
2	2.31
1	2.11

②①と同様に、コンピテンシーについても同じ成績の学生をグループ化し、累計 GPA 平均値を表すと以下の表のとおり。相関関係は無いと言える。

コンピテンシー	累計 GPA 平均値
7	2.40
6	2.41
5	2.24
4	2.21
3	2.30
2	2.26
1	2.37

4. 意見

(1) PROG 結果と成績の比較は昨年、一昨年度に続き、3 回目。

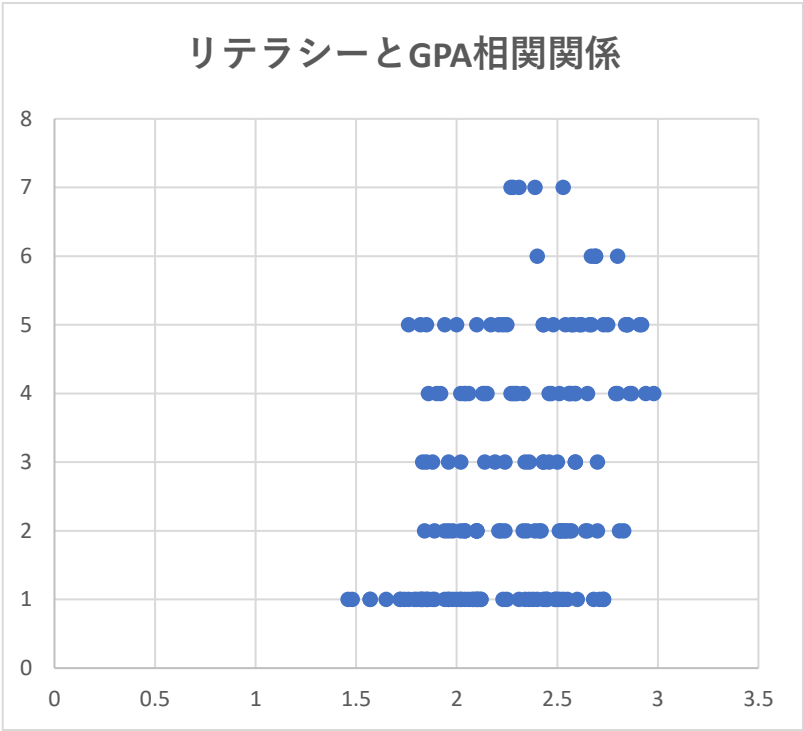
結果は従来同様、リテラシーについて成績との弱い正の相関が見られ、コンピテンシーについては、相関が見られないという結論であった。

(2) 既に述べたように、PROG は学生が社会に出て求められる汎用的技能を測定できる有力なツールである。今後も学生に対し、受検の勧奨を徹底願いたい。

以上

累計GPAとリテラシーの相関係数

0.37134



累計GPAとコンピテンシーの相関係数

0.00055

